



平成24年9月3日

卓話 『80歳を迎えて思う事』

作曲家

小林 亜星 様

皆さん、こんにちは。私は昭和7年生まれで戦前のことも幼心に多少知っているつもりです。戦時中も戦後も苦労したんですが、近頃また振り出しに戻ったような、若い頃と同じようだなと感じることが多くなったんです。

この頃きな臭いというか、日本の周りでも色々な国から色んなことされちゃって、昔だったら戦争ですよ。私の子どもの頃、日本は軍国主義の国だったかという、全然そうじゃなかった。戦争が始まる直前まで。戦前の日本は変な話、エログロナンセンスの軟派な時代ですね。人間ある所まで良くなってくると世の中緩んでくるんでしょう、きっと。

私が6歳のとき、叔父が結婚した相手が新宿のカフェのお嬢さんで、そこによく連れていかれました。行き交うお姉さんたちがいい香りで、「アラビアの歌」というレコードが年中かかるんです。私が音楽好きになったのはそれからですね。私はこういう世界で生きたいなと。そのうちだんだん戦時色が強くなってきたんですが、土壇場まで日比谷のダンスホールもやってたそうです。最後のお別れパーティーは昭和16年。戦争が始まりましたものね。みんな泣いてダンスしてお別れをした。その人たちは学徒動員で前線で玉砕するような目にあうんですけど、そういう土壇場まで分からない。今も右翼的なことをおっしゃる方、平和を守ろうという方もいらっしゃるけど、どっちがいいかわからないけど、軟派の不良は戦争は大嫌い。私ももう絶対いやです。

最近、経済が世界的におかしくなっている。戦前もそうです。大恐慌。その前に大正の大震災。

そしてエログロナンセンス。なんかおかしくなって戦争が始まった。日本が韓国を併合して日本の領土にした。確かにこれ悪いですよ。けどその前に日露戦争があったんです。受売りですけど日露戦争にはやっと勝った。こっちも危なかった。それにロシアが潰れたわけじゃないから、またやってくる。バルチック艦隊に頼んなくても大陸から来ればすぐなんですから。そうなるalmaz朝鮮がやられるぞと。それを何とかしなくちゃ日本にまで及ぶ危惧があったんですね。

出征した人の話を聞くとね、向こうで碌なことしてない。でもいいことも多いね。私、グアムに行った時、グアムの税関のおっさんと親しくなった。その人が言ってたのは、グアムの人はみんな日本が好き。なぜかという日本は軍律正しかったから。蒋介石の軍はだらしなかったし米軍が来たら混血が増えちゃった。軍律厳しいから日本人との混血は1人もいない。私もそういう日本人のいい面は確かにあると思います。勤勉で優秀だし正義感もあります。

これからはもうどこの国の人かという問題ではない。これから世界国家になっていくんじゃないですか。パソコンもそうでしょ。英語はもう世界語ですよ。そんな世の中になっていく。しかし日本人は優秀ですから心配ないと思います。

時間ですので、残念ですが終わらせていただきます。

